

<b>正誤表</b>	<b>よくわかる簿記シリーズ</b> <b>合格トレーニング 日商簿記1級工業簿記・原価計算Ⅲ Ver. 6.0</b>
------------	---

7394

本書において下記のとおり、誤りがございました。

内容を訂正すると共に、読者の皆様にご迷惑をおかけしたことを、深くお詫び申し上げます。  
 恐れ入りますが、本正誤表をご確認の上、ご利用いただきますようお願い申し上げます。

TAC出版

頁	訂正箇所	誤	正	追加日
問題 P. 123 解答解説 P. 264<262> 解答用紙 P. 78	問題 12-4	問題 12-4 につき、 合格テキストと同じ問題が掲載されておりました。 次ページの問題に差し替えをお願い致します。		19/3/12

以 上

## 問題12-4 ★★★

--	--	--

〔問1〕

15,300円で製品Xを購入する顧客には、その購入後も様々なコストが掛かる。すなわち、平均利用年数4年の間に、毎年の電気代3,000円と4年後に廃棄コストとして2,000円が掛かる。さらに購入1年後に故障が生じ修理代の掛かる可能性があり、その確率は20%である。その金額は、15%の確率で2,000円、4%の確率で5,000円、1%の確率で10,000円である。この場合、製品Xの取得から廃棄までのライフサイクル全体を通じて、顧客が負担するトータル・コストは、現在価値に換算していくらとなるか。割引率は年10%である。現在価値の計算には次の現価係数表を用いること。

年	1	2	3	4
10%の現価係数	0.91	0.83	0.75	0.68

〔問2〕

問1の条件のもとで、毎年の電気代が半額、廃棄コストがゼロ、1年後に修理代の掛かる確率が15%に減って、修理代が10%の確率で4,000円、5%の確率で8,000円になるとすれば、そのような製品Xの購入に際して、現在の顧客はいくらまで支払うであろうか。ただし、割引率は年10%である。現在価値の計算には上記の現価係数表を用いること。

## 問題12-4

〔問1〕

トータル・コスト
円

〔問2〕

顧客が支払う上限額
円

**問題12-4**

〔問1〕

トータル・コスト	26,716 円
----------	----------

〔問2〕

顧客が支払う上限額	21,233 円
-----------	----------

**解答への道**

〔問1〕

各年度に掛かる費用と、現在価値に割引した後の費用合計 (= ライフサイクル・コスト) を求める。

	現在	1年後	2年後	3年後	4年後
購入原価	15,300円				
電気代		3,000円	3,000円	3,000円	3,000円
修理代		600円*			
廃棄コスト					2,000円
計		3,600円	3,000円	3,000円	5,000円
		3,276円	2,490円	2,250円	3,400円
		$\times 0.91$	$\times 0.83$	$\times 0.75$	$\times 0.68$
合計	26,716円				

※ 修理代の期待値の計算

$$2,000円 \times 15\% + 5,000円 \times 4\% + 10,000円 \times 1\% = 600円$$

したがって、顧客が負担するトータル・コスト (= ライフサイクル・コスト) は26,716円である。

〔問2〕

顧客は総額で26,716円までならば負担してよいと考えている。そこで、購入費用の上限額をx(円)とおき、各年度に掛かる費用の条件を変更し、現在価値に割引した後の費用合計 (= トータル・コスト) を求める。

	現在	1年後	2年後	3年後	4年後
購入原価	x円				
電気代		1,500円	1,500円	1,500円	1,500円
修理代		800円*			
計		2,300円	1,500円	1,500円	1,500円
		2,093円	1,245円	1,125円	1,020円
		$\times 0.91$	$\times 0.83$	$\times 0.75$	$\times 0.68$
合計	26,716円				

※ 修理代の期待値の計算

$$4,000円 \times 10\% + 8,000円 \times 5\% = 800円$$

$$x + 2,093 + 1,245 + 1,125 + 1,020 = 26,716$$

$$x = 21,233$$

したがって、現在の顧客が購入時に支払ってもよいと考ええる上限額は21,233円である。